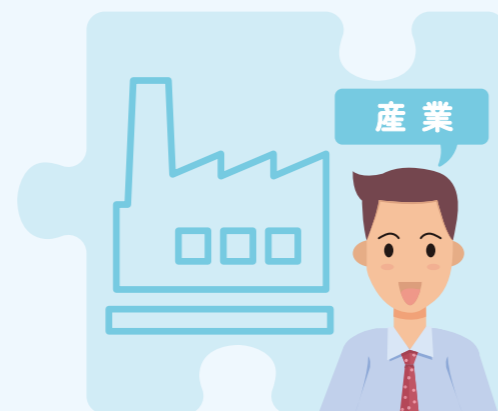
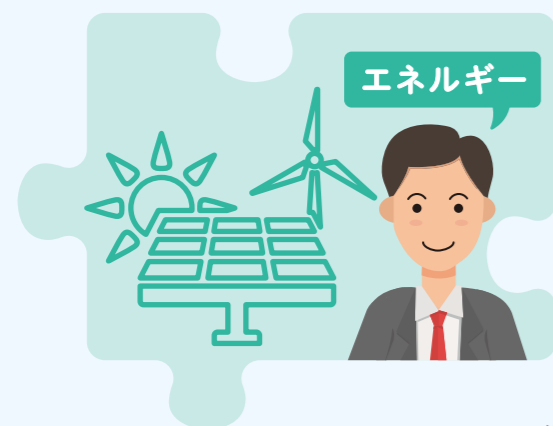


NGO・NPOの環境保全活動を支援します

～ 環境再生保全機構 ～

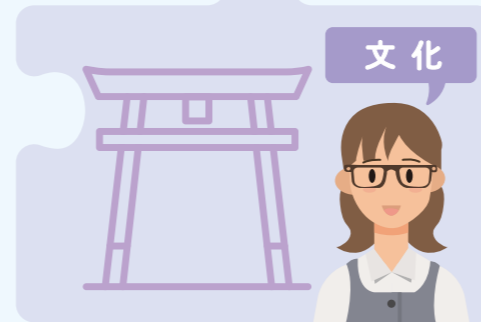
地球環境基金便り

インタビュー 井上咲楽さん



No. 55
Autumn/Winter
2023

みんなのピースを
もち寄ろう!



自立した地域が未来の力になる

地域循環共生圏

02 | Special issue

- ・あなたの町の「地域資源」は？
- ・NGO・NPOの活動事例から

07 | We are 環境 Player!

08 | みんなの環境活動

10 | サポーターインタビュー

- 13 | 第8回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会 開催報告



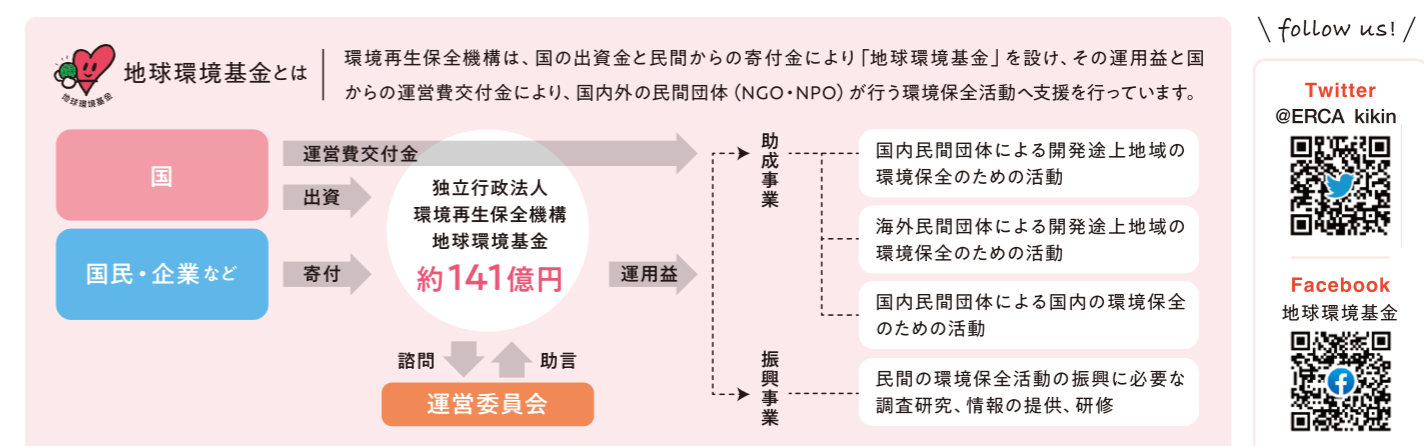
NGO・NPOの環境保全活動を支援します

地球環境基金便り

No. 55
Autumn/Winter
2023

Special Interview | SAKURA INOUE

井上 咲楽
ポップに楽しく！
それでこそ
持続可能です。



\ follow us! /

Twitter @ERCA kikin

Facebook 地球環境基金

独立行政法人 環境再生保全機構
発行/独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部基金管理課

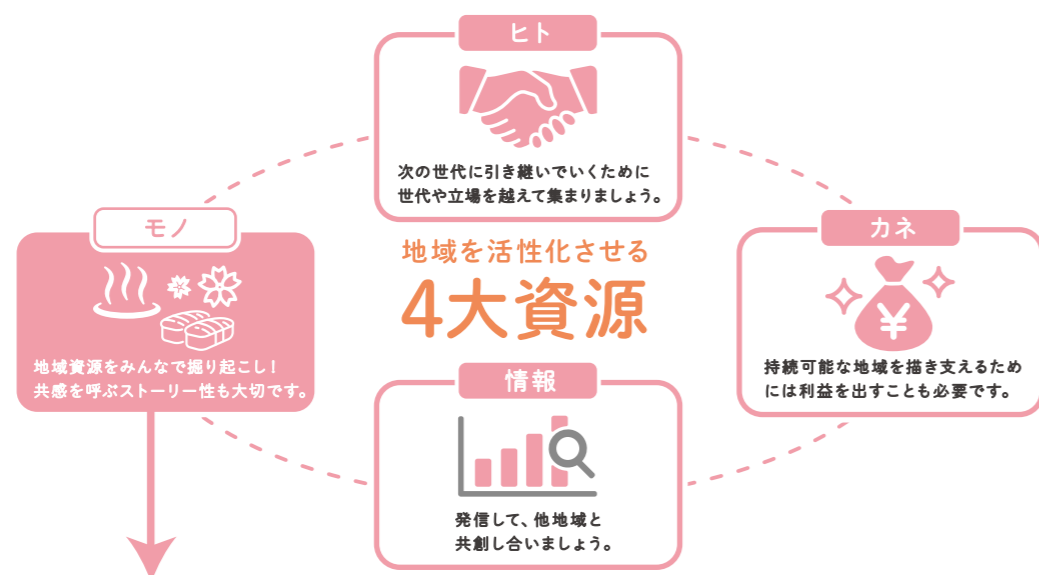
URL : <https://www.erca.go.jp/jfge/> E-mail : c-kikin@erca.go.jp
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8F
TEL : 044-520-9606 FAX : 044-520-2192 編集協力/株式会社文化工房



あなたの町の「地域資源」は？

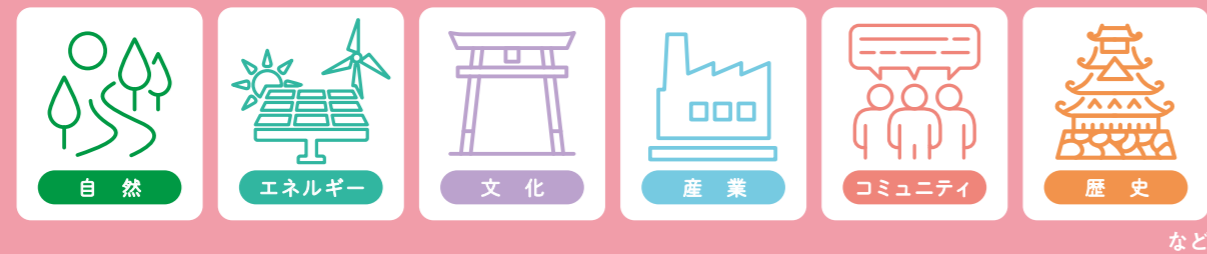
地域循環共生圏のはじめの一步は、地域の活性化と自立です。

4大資源を循環させるために、まずはみんなで集まって、本質的な価値に気づくための対話から始めてみませんか？



地域固有の価値＝地域資源

森・里・川・海といった自然に限らず、有形無形を問わず、エネルギー、文化、人、さまざまな産業、技術、コミュニティや都市基盤など、あらゆるものが資源になり得ます。



立場は違ってみんな、同じ地域住民。
地域が持続可能であるために
自由な対話から「地域資源のタネ」を
見出し芽吹かせよう！

多種多様な価値をもつ自立した地域が 未来の力になる

地域循環共生圏

ローカルSDGs

「地域循環共生圏／ローカルSDGs」とは、

地域の多様な魅力を最大限に活用しながら環境・社会・経済の同時解決を目指す、新しい考え方です。

それぞれの地域が固有の価値を活かし持続的に自立するためにはどうすればいいのでしょうか？

地域活性や環境ビジネス支援の専門家である、見山謙一郎先生に伺いました。

自由な発想でそれぞれの「地域資源」を
見い出すことから始めましょう

持続可能であるために
自分たちで考える

地域循環共生圏とは、それぞれの地域
が自分たちのもっている固有の価値＝
「地域資源」を活かし、多様な主体と連携
しながら自立し、その地域資源をほかの
地域とシェア・循環させることで、支え
合う社会を目指す考え方です。

発想の起点が地域資源であるため、
その地域ならではの特性を活かした
ビジネスや、地域固有のさまざまな価値
に彩られた豊かな暮らしが生まれる可
能性を秘めています。地域資源は自然
資源に限りませんが、地域の歴史・文
化・経済・社会の土台には風土があり、
自然環境を考えることは、持続可能な
地域の成長に欠かせないでしょう。

この考えの根底には、都市への一極集
中の是正という課題が横たわっていま
す。都市と地方、どちらも、ひとつの地域
ではありませんが、地方には人口減少など
持続可能性への危機感があります。一方
都市は地方の地域資源によって支えられ
ていることを強く意識しなければならま
せん。社会はそもそもつながっています。

どの地域の誰であっても、持続可能な
地域の活性化、地域循環共生圏と無関
係ではないのです。

では、どうしたら持続的な地域をつ
くれるのでしょうか？ 経営学におけ
るビジネスの4大資源「ヒト・モノ・
カネ・情報」の循環がひとつのヒント
になります。これを地域循環共生圏に
当てはめると、モノが「地域資源」にあ
たります。左ページのように、さまざま
な地域の価値が地域資源になり得ます。

この時、外部の視点を取り入れつつも、
地域住民が自らで地域資源を掘り起こ
す、内発的取り組みが重要です。

地域資源はじつに多彩 まずは立場を超えた対話から

岩手県一関市の「都市鉱山からつく
る！みんなのメダルプロジェクト」で
は、中尊寺金色堂を擁する隣町・平泉
の黄金文化の歴史的ストーリー性と、
市内で廃棄された使用済小型家電から
回収される金属を、地域資源と捉え、
東京2020オリンピックの金メダル
をつくることを計画。東北地方で小型

お話を伺ったのはこの方



専門は社会課題起点の経営学。環境省(地域
循環共生圏)、総務省(地域政策)、林野庁(林
業イノベーション)、地方自治体などの有識者
委員をつとめる。(株)フィールド・デザイン・
ネットワークス代表取締役CEO。

家電リサイクル法の認定事業者がある
青森県八戸市・秋田県大館市と連携し、
プロジェクトを実らせています。

このように、何を地域資源として活
かすかはアイデア次第です。自由な発想は、
肩書きを超えた「対話」から生まれます。
大切なのは「Why」なぜこれをやるの
か？です。SDGsや脱炭素は手段であ
り、目的は地域が持続可能になること。そ
れこそが地域循環共生圏が目指すもの
です。「Why」に立ち戻りながら考え、対
話を繰り返していけば、きっと自分たち
の地域の価値、地域資源を活かした取り
組みへとつながっていくはずですよ。

楽しい集まりを入り口に 環境への関心も、町づくりの当事者意識も 広がっていく

地域が自立するためにはお金の循環、ビジネスを育てることが重要です。活動2年目は、9つの町それぞれのコミュニティビジネスプランの考案、起業支援にも注力して、地域の植物を使った草木染めをつくるアクセサリー販売、地元高校生たちの自主活動「とめ地域経済研

究所」などが動き出しています。活動が活発な地域には、必ず地元を愛する熱い人がいます。そういう人の存在と出会いが地域の活性化には欠かせません。あの町なら誰々さん、というようなキーパーソンたちとつながり、市民ネットワークをさらに構築し、行政も巻き込みながら「とめ地域循環共生圏まちづくりプロジェクト」のプラットフォーム構築を成功させたいと思っています。

こんなふうにおしゃべりの中から、価値あることが発掘されることも少なくありません。

「コミュニティビジネスを立ち上げ
お金も循環させていく」

「お花とお昼とお話の会」では、花材



[上] 勉強会の内容は手描きのイラストメモでアーカイブ化。
[下] 活動内容をまとめた「とめっくらし通信」も定期発行中。



子育て中のお母さんから市議会議員までがひとつのテーブルを囲み、気軽に地域づくりの話題で同楽。

Quiz! コレ な〜んだ?

“ この地図は、
なんででしょうか? ”

答えは、9つの町の「地域資源マップ」。
それぞれの町の自然、神社仏閣、グルメ、観光地から
団体やコミュニティまで、幅広い地域資源を掲載。
自分の町の魅力を発信したり、強みを再確認したりできます。



こちらから
見られます!



特集 地域循環共生圏 地球環境基金便り



理事長 及川幾雄さん
足立千佳子さん

CASE.1

住民主体の町づくりで 地域の自立を

特定非営利活動法人

とめタウンネット

宮城県登米市

活動名 森の町・水の里・登米の自然環境を活かした

「とめ地域循環共生圏まちづくりプロジェクト」を実現するための体制づくり

東日本大震災以降、東北では「復興」が町づくりのキーワードでしたが、近年は「環境」が重要なキーワードのひとつになっていきます。地域の自然環境な

「お花とお昼とお話の会」では、花材



勉強会「水曜どうしよう?」では、ユーモラスなネーミングとは裏腹に、毎回、町づくりについて熱いトークが繰り広げられています。



へんべん草や麦も素敵な花材として並んだスワッグづくりの会。講師の菅原志恵(ゆきえ)さんは、緑豊かな「森エリア」東和町出身。草木染めの活動で地域を盛り上げ、他地域とも交流するキーパーソンのひとりです。



「とめっくらし通信」も定期発行中。

私たちが
「地域循環共生圏」
活動中
~ NGO・NPOの活動事例から ~

助成団体の中から、
地域循環共生圏にまつわる
活動を進める2団体を
紹介します。

町づくりのキーワードは 「復興」から「環境」へ

2005年に9つの町が合併して誕生した登米(とめ)市は、森林が約41%、農地が34%を占める緑豊かな地域です。また、日本屈指の水鳥の生息地で、ラムサール条約に登録されている伊豆沼、内沼をはじめ水辺環境にも恵まれています。

これらの豊かな自然環境を持続し次世代へ継承するために、とめタウンネットでは、合併前の旧町単位や、自然環境視点で分けた「水・里・森」の3エリアで、それぞれに地域資源の棚卸しをおこない、相互補完の関係を築いて持続可能な地域づくりを実践する「とめ地域循環共生圏まちづくりプロジェクト」を展開。現在はプラットフォーム構築の準備段階で、2022年から2年間、地球環境基金の特別助成を受け、体制づくりを進行中です。

私たちはもともと、立場を越えて地域の価値を上げる「エリアマネジメント」の考え方を地方都市にも展開し、住民主体の町づくり、住民自治を実現したいと考え、2014年から、人と人、場と場をつなげるさまざまな活動をしてきました。

おしゃべりの中から 地域資源が見つかることも

環境や住民自治に関心がない人たち、知らない人たちのために、まずは町づくりの主体・当事者が自分たちであることを感じてもらうと勉強会を開き、SNSや紙媒体を使って「学ぶ・広げる」を進めています。

活動のカギは「おもしろそう!」「なんか楽しい!」と感じるコミュニティづくりです。環境について語り合ひましょう、というとなかなか人は参加しにくい。そこで、みんなで編み物をする「ニットイングビー」や、主婦や子育て中のお母さんたちが集まる「お花とお昼とお話の会」、ゲストを招いて環境をおもしろく楽しく学ぶ「水曜どうしよう?おかえりの里・水曜会」という、大人の部活動のような集まりを定期的に開いています。

特集 地域循環共生圏 地球環境基金便り

We are 環境 Player! #03

「若手プロジェクトリーダー研修」の卒業生たちが きっと、環境団体を引っ張る存在になっていく。

公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF/ジーフ) は、1987年、子どもたちにとって自然体験を!という思いで開催された「清里フォーラム」をきっかけに活動を開始し1992年に団体を設立。翌年からさまざまなプロジェクトで、地球環境基金の助成を受けています。私は2014年に入職し、バングラデシュでの自然体験プログラムの開発・実践など、海外を専門に活動してきました。2019年、30歳の時に事務局長に就任。現在は、資金調達やネットワークづくりに奔走しています。団体の高齢化は業界共通の課題です。JEEFも私を含め若手がしっかりバトンを受け取ってつなげていきたいと思えます。



じつは私が初めて書いた助成申請書が地球環境基金でした。「若手プロジェクトリーダー研修(通称:PL研修)」の第1期生募集にも応募したのですが、残念ながら落選。5年後に再トライし、念願かなって第6期生として2019年から3年間の研修プログラムを受けることができました。PL研修は、とても刺激的な時間でした。ふだん自分が身を置いている環境教育分野とは異なる分野で活動している人たちとつながれたことが、最大の財産です。

若手プロジェクトリーダー研修とは?

地球環境基金では、これからの環境活動を担う人材を育成すべく、3年間の「若手プロジェクトリーダー研修」プログラムを実施しています。現在、8・9・10期生が研修中!

研修では、約10人の同期はもちろん、4期、5期の人たちとも知り合うことができ、幅広いネットワークができました。今でもSNSでつながっていて、何かあった時に「そうだ!あの人に聞いてみよう」と連絡することがあります。



研修プログラムは「対話」が多く、言語化することで自分の中でさまざまなことが整理されていきまますし、アウトプットすることで別の角度から意見をもらうことができます。ひとりでは気づけなかった発見がたくさんありました。本当にいろんなタイプの人があることもわかりましたし、自分がどんなタイプなのかよくわかりました。環境活動はOJT(実務・現場の教育)で学んでいくので、こうした座学で学ぶ機会はとても貴重です。日々の活動が忙しく、なかなか集中して学ぶ時間がとれないので、ありがたかったです。講師陣の顔ぶれも魅力的でした。教えてもらった自己分析の方法や、コミュニケーションを活性化するための場づくりなど、研修で自分が体験したことを、そのまま団体のマネジメントにも活用できました。私にとっては、研修期間中に事務局長を引き継いだので、なおさら役立ちました。

JEEFとしては、誰ひとり取り残さない環境教育を提供するために無償キャンプなどを開催しながら「自然っていいな、大事だな」と感じる自然体験の機会を、すべての子どもたちに平等に、広げていきたいです。それと並行して、NGO・NPOで働く人がしっかり生計を立てられる業界にしていきたいとも思っています。やりがいや、やる気に支えられているだけでは団体そのものが持続可能ではありません。この道を選んでも、結婚も子育てもしていけるように。まずは自分の団体から組織運営を見直し、変えていきたいと思っています。



世の中が「環境」に目を向けている今、私たちのような市民団体がそこに機能していけるかどうかは重要です。それが団体存続にも関わってきます。PL研修を卒業した人たちが、きっとこれからそれぞれの団体を牽引していく存在になっていくと思うので、出会った仲間たちと一緒に、地球環境はもちろん、環境業界も良くしていきたいですね。



6期生
公益社団法人
日本環境教育フォーラム
加藤 超大大さん



高野 良裕さん

自然と人がつくる島の環境文化を資源に

任意団体 **せとうちんちゅネットワーク** 鹿児島県大島郡瀬戸内町

活動名 廃校を拠点に地球環境を基盤とした地域循環共生圏の創造と奄美大島の自然と伝統文化を活かした体験型SDGs学習の場の構築

行政、病院、学校、集落 多様な連携で地域が動き出す



修繕した廃校が活動の拠点です。

自然豊かな奄美でも環境文化を体験する場は必要
奄美大島は世界自然遺産の島であり、自然と人間の関わり豊かな土地です。しかし、町ではSDGsや環境文化を学ぶ場がなく、町内の幼稚園で実施したアンケートでは、普段の生活で土に触れる機会が「ある」と答えた母親は0%でした。
私たちはSDGsを広く学べる場をつくるために、2018年に活動を開始。2020年から地球環境基金の助成を受け、廃棄食材で生産をおこなう「リフード・コンセプト」を軸に、廃校を再活用しながら、奄美の自然や伝統文化を通して地域や環境を学ぶ体験型プログラムを開発・実践しています。文化の伝承と人の交流を促進し、地域循環共生圏のモデル地区になればと思っています。

体験会、ワークショップ、講演会は、これまでの2年間で計35回開催し、のべ539人が参加。手応えを感じています。
なかでも、集落の高齢者、地元中高生、鹿児島大学の学生たちとの交流は大成功。その後、大学生が自主的に大学と奄美の2拠点で活動する「奄美を知るサークル(ゆりむん)」を立ち上げ、循環型有機農業の体験や集落の人たちとの交流を継続。滞在中に仕入れた奄美の食材を、鹿児島のカフェで使うことも検討しているそうです。



鶏卵は新聞紙を容器にして、人の温かみと環境配慮のコンセプトが伝わるよう工夫して販売。

行政との連携で活動が充実 島全域を巻き込む動きも
リフード・コンセプトの取り組みとしては、地域の病院と連携し、食事の食べ残しではなく、調理時に出る野菜くずや余ったお米などを回収し、鶏の餌に活用。鶏卵を生産したり、鶏から得られる糞を有機肥料にして有機農産物をつくったりしています。



あいがも農法でお米を育てる「泥んこ田植え体験」。子どもたちも素足で田んぼに入って苗を植えます。

今年の春には「給食をオーガニックへ」というテーマで、元農林水産大臣を迎えたイベントも実現。予想を超えた反響があり、島全域で取り組もう!という機運が高まっています。
こうした体験プログラムやイベントの充実、行政との連携の賜物です。行政のネットワークを利用できたことで、町民に広く広報でき、参加者募集もできました。また、行政の仕組みに活動を組み込むことで、活動自体が持続可能なものになりました。地域循環共生圏の仕組みを継続するには、行政とのタッグが必要だと感じています。
地元の子も、都市部の子も、一人でも多くの若い人たちが、自然豊かな島で、地域資源を有効活用しながら暮らす価値や課題を体感し、未来の社会を担う人材になってほしいです。これからも多様な人たちと協力しながら、活動を広げていきたいと思っています。

サステナブルツーリズムを体感するモニターツアー!



最初の大仕事となったWEBサイトの和訳作業



「ツーリズムEXPO 2022」のブースは大盛況



トラベライフ会員対象の研修を東京で開催

サービス、体験、商品など数多くのサプライチェーンが関わります。バイヤーともいえる旅行会社が地域の文化や自然資源に配慮したサステナブルツーリズムを計画し、その地域が経済的にも文化・環境資源的にも恩恵を受けられることが重要です。そのため「環境に配慮した旅行」であることを見える化できる認証制度が役立ちます。

観光が地域のプラスになるように旅行会社から変えていく

「トラベライフ」はオランダに本部を置く国際基準です。評価項目が多面的で、国際基準の指針とされるGSTCにも準拠しています。私



「トラベライフ」ロゴは環境に配慮した旅行の証

「環境に配慮した観光」を評価する認証制度を日本にも

ツーリズム市場は世界的に右肩上がり、新型コロナウイルス感染症により一時停滞したものの、再び活況を取り戻しています。日本では、観光庁が2030年までに訪日外国人旅行者数6000万人の目標を掲げ、いまや10人に1人が観光産業に従事しているとも言われます。

そんななか問題となっているのが「観光公害」です。観光開発と環境保全のバランスが崩れたり、町のインフラなどに対してキャパオーバーな観光客が押し寄せ地域住民の暮らしに影響が出たり、さらには、利益を優先した観光商品が横行したり。町づくりと観光の在り方が問われるとともに、持続可能なツーリズムへの転換が求められています。

ヨーロッパやアジアのリゾート地では、サステナブルツーリズムのための国際認証制度が進んでいます。が、

テーマも取り組みも十人十色!

みんなの環境活動

助成団体の活動の中から注目のテーマや取り組みをクローズアップしてご紹介します

サステナブルツーリズムを広げ日本の地域を元気にする

「トラベライフ」の対象は旅行会社やツアーオペレーター

宿泊施設や観光地に特化したものなど、認証制度にはさまざまな種類がありますが、私たちは、旅行会社やツアーオペレーターを対象とした「トラベライフ (Travelife)」の導入と普及を進めています。

日本における観光は、旅行会社への依存が大きく、地方では、不本意な料金設定や、トイレ・ごみ処理などの施設整備の負担を負うケースもみられます。旅行商品には、宿泊、飲食、交通、

残念ながら日本は遅れています。世界規模でビジネスを展開する海外の大手旅行会社は、受け入れ先である日本の旅行会社、ツアーオペレーターにも国際基準を満たしたサステナブルなふるまいを求めるようになっていきます。サステナブルツーリズムの国際的な認証の普及は、日本の観光産業の成長には欠かせません。

私たちは助成初年度に、まず全256項目ある認証基準を和訳し、旅行会社が日本語で取り組めるようにオンラインシステムを整備。並行してツーリズムEXPOなどの展示会に出展したり、研修会を開いたりしてPR活動を重ねてきました。

コロナ禍ながら2年目には4社、3年目には13社が新規加入。4年目の今年には「JARTAフォーラム」を開催し、JARTA会員によるさまざまな事例発表や意見交換をする、リアルな交流も実現できました。

この活動で難しいのは、旅行会社にとって認証取得は付加価値にはなるけれど、売上に直結しないこと。それでもこの2〜3年で関心をもつてくれる会社は増えました。最近「トラベライフは健康診断のようなもの。基準に照らし合わせてみることで、自分たちの強みや弱みが見えてきますよ」と説明しています。

旅は、地域の魅力が誰かに見い出される素晴らしい機会です。人との出会いで世界が広がります。観光というツールは、地域のさまざまな課題を解決する可能性を秘めています。日本の地域が元気になるために、旅行会社ができることをこれからも続けていきたいと思っています。

京都市のマナー看板



JARTAが事務所を置く京都は、日本屈指の人気観光地。観光公害も深刻です。京都流の立て看板でマナー啓発。

〈京都の観光公害の一例〉

寺の禁止区域への立ち入り...

無許可での写真撮影...

バスが混んでいて通学・通勤に支障が...

近隣の宿泊施設の騒音...

ゴミが街角に山積み...

「観光公害」って知ってる?

観光公害(オーバーツーリズム)とは

観光客の集中によって起こるさまざまな弊害のこと。自然環境や文化財などへのダメージから、市民生活への悪影響まで、その内容はさまざま、世界中の観光地が抱える課題です。

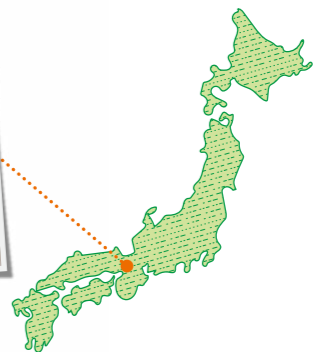
今回お話を伺ったのはこの団体

一般社団法人 JARTA (Japan Alliance of Responsible Travel Agencies)

活動名 旅行会社に向けたサステナブル・ツーリズム国際認証制度の普及啓発

JARTA(ジャルタ)は「責任ある旅行会社アライアンス」を掲げ、7社の旅行会社が集結して京都にて設立。現在、北海道から奄美大島まで29社を会員にもつ。トラベライフ、グリーンキー、ブルーフラッグの国内窓口を担うほか、観光を通じて地域の課題解決に寄与するサステナブルツーリズムの普及啓発を進めています。

団体の設立年 2018年5月
本活動の開始年 2019年 地球環境基金の助成年数 5年目



株式会社みなと銀行

脱炭素貢献私募債『グリーン企業の証』



みなと銀行

本社所在地 兵庫県神戸市

URL <https://www.minatobk.co.jp/>

関西みらいフィナンシャルグループの一員である、みなと銀行。兵庫県の県民銀行として、多彩な金融商品やサービスで、地域経済活性化や社会課題の解決に取り組んでいます。時流に合わせた企業向け商品「寄付型私募債」の取り扱いも多く、2022年3月に開始した脱炭素貢献私募債『グリーン企業の証』では、寄付先のひとつに地球環境基金を選定いただきました。県や国と連携した業界初の試みで注目される『グリーン企業の証』について、お話を伺いました。

「県民銀行として地域の中小企業の
「脱炭素」経営を後押ししていきます」

脱炭素貢献私募債『グリーン企業の証』とは、どのようなものですか？

「私債（しぼさい）とは、企業が資金調達のために発行する社債のひとつです。みなと銀行では、地元企業の支援や地域経済活性化につなげるために、時流に合わせて、さまざまなテーマの寄付型私募債を企画しています。そのひとつが『グリーン企業の証』です。『脱炭素経営に取り組むことを宣言していただく』ことを利用条件とし、寄付型私募債を発行する際にお客さまからみなと銀行が受け取る手数料の一部を、お客さまが指定した環境関連基金などに対して寄付をおこない、再生可能エネルギー設備の普及や森林整備といった環境保全活動などを応援するものです。寄付先は5つの環境関連基金などを留意しており、その中に「地球環境基金」があります。また、みなと銀行が設立した脱炭素経営サークルに加盟された私募債発行企業に対しては、環境省近畿地方環境事務所・兵庫県・みなと銀行の3者連名による「感謝状楯」を贈呈しています。

なお、私債は一定の財務水準を有する企業によって発行されているため、「優良企業」との評価が得られ、信用力を対外的にアピールすることが可能です。

企業の皆さまの反応や脱炭素への動きなどは、いかがでしょうか？

これまでもSDGs、子ども支援、コロナ禍の医療従事者への感謝といった寄付型私募債を企画してきましたが、脱炭素化の流れが加速する中、『グリーン企業の証』も反響が大きく、2022年度は32社にご利用いただいています。この私債は「脱炭素経営に向けた宣言書」を提出いただくことが利用条件で、宣言書には7つの挑戦項目が設けられています。SDGsや脱炭素という言葉が一般的になったとはいえ「何をしたらいいかわからない……」という声も少なくありません。そんな中、この宣言書が、脱炭素に向けて具体的にどう行動していくかを考えるきっかけになっています。『グリーン企業の証』を機に、SDGs推進室を足させた企業もありました。

みなと銀行・環境省近畿地方環境事務所・兵庫県の3者連名の楯は、どのようにして実現したのですか？

脱炭素は企業が成長していくための世界的なキーワードです。大企業は早くから動き始めていますが、サブライチエーションの中にある中小企業がビジネスの潮流から取り残されてしまわないよう、兵庫県の県民銀行として、より多くの県内企業に脱炭素経営の重要性を伝えたく、環境省、兵庫県に働きかけました。結果、3者連名の感謝状楯が実現。銀行の私債では初の試みで、企業価値向上につながるIRR効果の高い、まさに『グリーン企業の証』と言える、貴重な楯になりました。年に一度、開催される楯の合同寄贈式は、脱炭素への熱い思いを発表し合う交流の場にもなっています。私たちは、寄付型私債を使って終わりではなく、脱炭素経営が実行されるまでをサポートしています。セミナーや勉強会を通じて「意識の醸成」、自社のCO2排出量を知る「現状認識」、脱炭素経営への「実践準備」、再生エネルギーや省エネを取り



法人業務部グループリーダー 高砂 勇太さん(右)
チーフマネージャー 福田 和輝さん(左)

入れるなど具体的な「実行」まで、4つのステップで伴走します。企業によって事業内容も経営状況も千差万別です。県民銀行として一社一社に寄り添いながら、地域の皆さまとともに、経済活性化と脱炭素社会の両立を目指していきたいと思っています。



【上】『グリーン企業の証』利用後も企業の脱炭素に向けた取り組みをサポートする「脱炭素経営サークル」の勉強会。



【下】みなと銀行で執りおこなわれる「発行記念寄贈式」で楯が贈られます。

『グリーン企業の証』で
寄付先に地球環境基金を選んでくださった
三宝電機株式会社さまに
お話を伺いました



三宝電機は大阪に本社を構える電気工事・空調の会社で、国内外のビルや工場に最適な環境空間を提供しています。2010年頃から活発になったメガソーラー事業の施工などを通じて再生エネルギー分野にも取り組んでおり、事業を通じて脱炭素に取り組んできました。しかし、自分たちだけではできないことが限られています。そこで、SDGsやESG活動の一環として、環境活動団体の支援をさせていただいています。

グローバルに事業を展開しています。そんな縁もあり、海外で環境活動をしている方たちの支援につながりたいと思い、今回、地球環境基金への寄付を決めました。地球環境基金がこなっている、高校生ユーザー環境活動や若手プロジェクトリーダー研修など、若い世代へのサポートも素晴らしいですね。夢があります。

電線ケーブルのリサイクル、工事現場の廃棄物分別などももちろん、今後安価になるであろう蓄電池の活用や地球環境負荷の低い冷媒空調システムの普及など、地球環境に貢献できることはたくさんあります。近い将来を見据え、メガソーラーのリニューアルにも備えていく予定です。社内においては、個人ができる節電などの小さな取り組みの中で、より環境効果の高い活動は何かを探っているところです。地球環境のためにみんなで行っていきたいですね。



代表取締役社長 嘉納 秀憲さん(右)
取締役管理室長 川島 宏樹さん(左)



SEAMEC

第8回 全国ユース環境活動発表大会全国大会 開催報告

日本全国のユース世代による自主的な環境活動の継続・発展、ネットワーク拡大を目指す「全国ユース環境活動発表大会」。8つの地方大会から選出された16団体が全国大会に出場しました。どの団体も学校の中だけにとどまらず、地域をはじめ多様な主体を巻き込んで課題解決に向けて取り組んでいました。環境大臣賞をはじめすべての出場団体に賞が贈られています。受賞校の皆さん、おめでとうございます！



概要
 日程：令和5年2月4日(土)～2月5日(日)
 会場：ステーションコンファレンス東京
 主催：全国ユース環境活動発表大会実行委員会(環境省/独立行政法人環境再生保全機構/国連大学サステナビリティ高等研究所)
 後援：読売新聞社
 協力：環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)/地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)/ESD活動支援センター
 協賛：キリンホールディングス株式会社/協栄産業株式会社/SGホールディングス株式会社/株式会社タニタ



環境大臣賞



宮城県農業高等学校 作物部門
#ZERO マイプラ2
 地元の砂浜では稲作で使われるプラスチック肥料の残骸が海洋汚染を起こしていた。ウレアホルム肥料を使うことで、プラスチック肥料を使わない栽培法の構築に成功。日本のプラスチック肥料をゼロにする活動につながった。

環境再生保全機構 理事長賞



群馬県立藤岡北高等学校 環境工学部
小川の未来を考える
 ～地域連携・協働によるヤリタナゴ保護活動～
 次世代にきれいで魚のたくさん生息できる豊かな環境を残すことが目標。市の天然記念物であるヤリタナゴの保護活動を地域と連携・協働で実施している。啓発活動にも取り組み、ヤリタナゴの知名度が向上した。

国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞



熊本県立熊本農業高等学校 養豚プロジェクト
廃棄豚脂の有効活用に関する研究
 ～養豚業におけるゼロエミッションへの挑戦～
 校内で廃棄していた豚脂の有効活用を図り、廃棄ゼロを目指した。さまざまな挑戦の結果、市販に比べ1.7倍洗浄力が高い洗濯用石鹸が完成。養豚業におけるゼロエミッションを達成し、持続可能な生活の実現を目指す。

読売新聞社賞

高校生エシカル推進委員会
気候変動×楽しさ ～私たちが行動する意味～
 気候変動の影響を一番受ける世代の自分たちが中心となって考え、行動している。兵庫県内を中心に、全国の仲間たちと楽しく発信。

協賛企業特別賞

晃華学園中学校高等学校 Banana to The Futures
バナナペーパーを普及するためのプロジェクト
 企業と連携しSDGs教材を作成したり、小学生向けのワークショップを企画・実施。日常生活で紙を使う際の選択肢の一つとなることを目指す。

優秀賞

北海道羽幌高等学校 SBF プロジェクトチーム 羽幌町に飛来する海鳥と今後の課題
 岩手県立花巻農業高等学校ソーセージ研究班 サステナブルな地域創生児
 ～ホップの抗菌作用を活かした商品開発に関する研究～
 愛知県立佐屋高等学校 科学部 愛知県愛西市内用水路に生きるカメ類
 山口県立下関高等学校 公民班 下関市風力発電導入大作戦～脱炭素社会の実現に向けて～
 山口県立下関高等学校 化学2班 カイロを変えろ!!
 愛媛大学附属高等学校 理科部ブラガールズ 瀬戸内海のマイクロプラスチック汚染の実態と対策に向けた啓発活動
 愛媛県立長浜高等学校 チーム530 カワイイのぼり旗でゴミを減らそう!えひめゴミ0プロジェクト
 大分県立大分商業高等学校 商業調査部 食品ロスさせない連携～規格外トマトを活用した商品開発～

高校生が選ぶ特別賞

長野県佐久総合技術高等学校 チームさくさく
カスを価値に!～未来へ佐久酒粕プロジェクト～
 地域資源を活かし、地元酒造と連携し日本酒造りに取り組む。酒粕の需要拡大と食品ロスの削減を目的に活動。

SDGs活動特別賞

大阪府立堺工科大学 定時制の課程 エコ・プロジェクト部
脱炭素!地球温暖化防止プロジェクト
 太陽光発電に取り組み、環境イベントなどで電気を供給している。「地球環境」を考えてもらうために環境啓発活動も行う。

先生が選ぶ特別賞

北海道士幌高等学校 環境班
持続可能な地域環境を目指して
 ～次の100年へ、地域を守る防風林造成を～
 十勝風の風害から農地を守る防風林の更新の課題解決のために活動。農業や環境、文化の調和を図り、持続可能な地域環境を目指している。

編集後記

まずは、楽しく面白く!

「環境」という言葉に身構えず、楽しんで面白がって、やってみる。あなたの「楽しい!」が、地球を守ることや地域の成長につながるかもしれません。ワクワクする環境活動、はじめませんか?



今号は、みんなのpieceをもち寄ることが未来のpeaceにつながる。そんな思いを両表紙に込めました。



基金へのご支援をありがとうございます

皆さまのご協力が、多くの環境保全活動、持続可能な社会実現への支えになっています。個人や企業・団体としてご協力いただいた方はもちろん、さまざまなイベントを通じて募金活動にご参加・ご協力いただいた大勢の方々に深く御礼申し上げます。

2023年1月から6月末日現在までに、571件、総額 **23,662,731**円のご支援をいただきました

個人	企業	国・地方公共団体	その他			
青木 大地 飯田 浩二 五十嵐 真由美 池亀 裕子 池田 朝雄 石井 宏作 石井 忠一 石川 倫 石田 洋子 伊藤 文子 井上 雅晴 今田 圭孝 岩井 克行 植松 太郎 遠藤 紀彦 大木 恒和 大橋 史郎 岡本 昇 小川 遥 小川 正樹 加治屋 幸子 片岡 真一 加藤 出 加藤 信幸 門畑 裕美子 加本 和美 菊地 宏子	窪原 麻希 古藤 恵美子 小林 大 小林 正幸 小山 明子 近藤 伊津子 酒井 航介 崎山 泰樹 櫻木 薫 笹生 真悟 佐野 郁夫 篠原 泰 芝田 千鶴子 志村 和男 杉本 敦也 大宝院 良子 高橋 恵子 高橋 秀夫 高橋 秀忠 高橋 宜子 田辺 八重子 中原 宏 永見 泰宏 中村 瑛登 中村 里美 中村 初音 中村 昌敬	橋本 雄次 土生 亜紀子 兵藤 芳子 藤田 周一 前田 綾香 松本 大 水谷 真砂子 村上 基 矢作 浩子 山崎 節子 吉田 龍貴 米原 勇幸雄 脇本 奉機 渡部 智寛	浅香工業株式会社 株式会社旭創業 株式会社朝日フィナンシャルグループ Albizia Jewelry イーパートナーズ株式会社 嬉野温泉病院 株式会社大室明治也 奥野製薬工業株式会社 オリンパス株式会社 かいてき調剤薬局グループ かわかみ薬局 かわかみ薬局泉中央店 かわかみ薬局行橋厚生病院前店 かわかみ薬局福祉医療の里店 有限会社敬愛社 株式会社志成販売 株式会社ジャバンクリエイト 株式会社ソルバック 大同生命 株式会社橋フォーサイトグループ 株式会社タニタ ツアン・システム有限公司 継続特許事務所 鳥取ファーマーズガーデン 日本紙通商株式会社 環境部 早川果樹園 株式会社早木電機 はるな薬局 ブックオフコーポレーション株式会社(キモチと。) ポケットカード株式会社 三菱UFJニコス株式会社 有限会社メディカルライフ	春日部市役所 環境政策課 環境省 五泉市役所 環境保全課 上越市役所 環境保全課 瀬戸内市役所 長船支所 津市役所 環境部 環境政策課 東温市役所 直島町役場 環境水道課 兵庫県庁 環境部 自然鳥獣共生課 南会津町役場 館岩総合支所	社会福祉法人いのやま福祉会 野の花 環境広場ほっかいどう2023 国本小学校 埼玉県立いずみ高等学校 一般社団法人全国燃料協会 学校法人玉川学園 Pixel Anglers NFT メディアデザイン ロハスフェスタ万博2022秋	一般社団法人 日本釣用品工業会

※このリストは、地球環境基金への振込通知書などに記載された名称・氏名に基づき作成しておりますので、個人および企業・団体などの区別につきまして必ずしも正確ではない場合があります。また、紙面の都合により、ご寄付・ご支援くださったすべての方のお名前を掲載できない場合もございますので、ご了承ください。

(五十音順・敬称略)

ご寄付口座のご案内

「地球環境基金」へのご寄付は、下記口座より受け付けております。同一金融機関でのお振り込みについては、取扱窓口でお申し出ください。

銀行名/支店名	口座番号	口座名称
ゆうちょ銀行	00190-664214	地球環境基金
三井住友銀行/東京公務部	普通預金 3013615	独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
三菱UFJ銀行/本店	普通預金 7637448	
みずほ銀行/本店	普通預金 2413416	
りそね銀行/赤坂支店	普通預金 1023850	

- 独立行政法人環境再生保全機構は、特定公益増進法人に指定されており、税制上の優遇措置を受けることができます。
- ゆうちょ銀行以外の銀行からお振り込みいただく場合は、領収書が発行できません。領収書の発行を希望される方は、お手数ですが、地球環境基金部基金管理課(TEL:044-520-9606)へご連絡ください。

ご寄付の方法

金融機関からのご寄付のほかに多様な寄付方法をご用意しています。

ご寄付はこちらから/

基金サポーターから [本 de 寄付] から

クレジットカードのポイントから [つながる募金] から

スマートフォンから 募金箱の設置から

マルチコピー機 募金受付サービスから 相続財産から

詳しくはWEBサイトをご覧ください
 地球環境基金ホームページ
 「ご寄付の方法」
<https://www.erca.go.jp/jfge/donation/raise/>

PRESENT

お答えいただいた方の中から抽選で、10名様に地球環境基金オリジナル・エコボトル、3名様に井上咲楽さんのサイン色紙をプレゼントします。ご回答お待ちしております!



【応募締め切り】2024年2月末
 【応募方法】アンケートはがき、WEBサイト

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

Special Interview | SAKURA INOUE

「環境」のこと どう意識して いますか？

栃木県益子町で育った井上咲楽さん。

自然に囲まれた中で暮らしている生活の知恵が詰まっていたといいます。

最近は環境活動の現場を訪ねることも増えたという

井上さんに、環境について伺いました。

井上さんにとって
「環境活動」って
どんなものですか？

環境活動は もっとポップで いいと思う！

デビューした頃、テレビのSDGs特集で私の実家を撮影しに来ていただく機会が多かったです。でも、両親にとって山の中の生活も、いろんなものをつくり出すのも、自分たちが好きでやっていることなので「これがSDGsなんだ」って感じで。私も子どもの頃からごみの出し方など細かく教えてもらいましたが、それも環境のためというより、山の下にあるごみステーションに楽に持っていくため。ごみ袋だってタダじゃないからなるべくごみを出さないように。私の、ごみを出さない、ものを大事にする習慣は、じつはそんな背景からでした(笑)。

最近ではお仕事で各地の環境活動の現場に伺う機会も増え、改めていろいろと考えさせられています。環境保全はもちろん大切ですが、義務になりすぎるのは違うと思いますし、「環境活動=意識の高い人がやるもの」になってしまうのは、逆にすごくもったいない。みんなが普通にやるものであったほうがいいかなって。先日参加したごみ拾いイベントの「スポギョミ!」は、そういう意味でゲーム感覚なところがいいなと思いました。実際にごみ拾いをしてみると、楽しさの中にも気づくことや感じることもあります。そうやって楽しみながら学べる環境活動っていうのが、ポップな感じでいいのになって思います!

インタビューフルバージョンはWEBサイトで10月初旬公開予定!



環境のために
「アクションチェンジ」するには？

自分の目で見る ことが大切

SNS時代の今は何でもスマホで見られちゃうけど、やっぱり直接見ることはすごく大事だと思います。海岸に溜まるごみを実際に見たら、自分が何気なく捨てたごみがここに辿り着くかもしれないと思って、捨てるのを止めるきっかけになると思います。



同世代と環境のこと
話すことありますか？

普通に会話 に出てきます

友達と「着なくなった洋服どうしてる？」みたいな話になると、古着屋さんを持って行く子もいれば、「〇〇の回収BOXに入れると500円分のチケットもらえるよ」と教えてくれる子もいたりして。環境のためというより「あれいいよね!」って感じではありますが、普通にリサイクルの話とかしています。

いのうえさくら
井上咲楽

1999年10月2日栃木県生まれ。2015年、第40回ホリプロスカウトキャラバンで特別賞を受賞し、デビュー。現在は多数のパラエティに出演するほか、『新婚さんいらっしゃい!』のMCも務める。



井上咲楽さんの環境活動ニュース

[スポギョミ! / 写真] さかなクンが隊長となって日本各地をきれいにするプロジェクト「スポギョミ!」で副隊長を務める井上さん。海岸でのごみ拾いでは「拾うのも大変なくらい細くなったプラスチックごみを見て、これが海にずっと漂ってしまうんだ」と海洋ごみの現実を目の当たりに。

[豊島事件の視察] 今年2月には香川県の豊島にある廃棄ごみの現場を視察。「私のような外部の人間が行くことに葛藤がありました。地元の方々の“知ってほしい”という熱い思いに胸を打たれました。」

環境を意識して
実際、どんなことしていますか？

物は捨てる フリマアプリで次の人へ

いろいろあります。生ごみは水気を切ってから捨てる、水を飲んだコップとかあまり汚れていないときは洗剤は使わない、包装が過剰なものは捨てるのが大変だから買わない、などは意識しています。あと、私はなかなか物を捨てられないんです。妹が3人いるせいか、自分が使わなくても残しておけば誰かが使うのが当たり前だったので。一人暮らしの今は、フリマアプリを使って欲しい人に譲っています。

地元の町(益子町)の
魅力は何ですか？

都会と距離が あったおかげで

家は山の上でしたし、中学生になる頃まで益子町以外のことをまったく知らなかったんです。当時から眉毛は太かったけれど、益子にいないだけで東京にはそういう人いっぱいいるだろうなと思っていて。ある意味、閉ざされた世界で生きていたからこそ、周りとは比べることもなく、自分の個性が形成されたと思うので、今思えばその環境がよかったなと。

読者プレゼント!



アンケートに回答いただいた方の中から抽選で3名様に、サイン色紙をプレゼント! 詳しくはP12のはがき、またはWEBへ。

※WEBからのご応募は10月初旬より受付となります。

詳しくはこちら

